金剛製雛形五弦琴

この弦楽器は、中国の箏から発展した倭琴として知られる日本固有の琴の雛形品です。この琴の最大の特徴は、琴の頭の形が、広がった「凧の尾」であることです。これは、神宝館でも展示されている雛形織機と同じく沖ノ島の祭場で発見されました。雛形琴の弦は実際に音を出すことが出来ます。同様の琴は、皇室の祖先を祀る本殿・伊勢神宮の神器の一つでもあります。このことから、沖ノ島で行われた儀式は、8 世紀に中央集権的な統治体制の下で後に行われた同様の律令祭祀に先行していたことを示唆しています。